

事業所名 グループホーム友愛
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、老人福祉施設(9年以上)
B:現職 元介護療養型病棟看護師
資格・経験 看護師(8年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) 入居者には第二の我が家としてこのホームを自分の家と思ってもらい、残存機能を生かしながら生きる喜び・生きる意欲を高め、ここへ来て良かったと感じてもらえるように努力したい。 その方が送ってきた生活のスタイルをできるだけ継続し、職員と一緒に日常生活を送る中で普段の生活がリハビリとなり、個人の尊厳と生活の質を保ち、種やかな毎日が送れることを支援したい。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 入居者の好きな事やしたい事は可能な限りすぐに出来るように支援し、ストレスが溜まらないようにしている。自分から欲求を言う事はあまり無いが、職員との会話の中でできるだけ要望を聞き出して一緒にするように取り組んでいる。その時には、「待って」という言葉は使わないように決めている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

天気の良い日は毎日気軽に外に出ている。ホームの周りは団地や住宅でスーパーも近くにあり、買い物にもとても便利である。散歩にもよく行っており、様々な散歩コースがあるので今日はどのコースにするかを選ぶのも楽しみである。近くの中学校に行きベンチで休んで帰るのもコースの一つになっている。ドライブや公園に手作りの弁当持参で行くことや、外食をすることも。同法人の介護老人保健施設藤戸荘へも、ボランティアの歌や踊りを見るために時々行っている。

職員は、皆家族であるという意識で介護に当たっているため、入居者も職員も毎日楽しく過ごせている。「今入居されている方は、喜んで暮らしておられると思う。」と言われる管理者の言葉に優しさがこもっていた。

ホームの1階が病院になっているので医療面の協力体制もできており、職員にも入居者にも安心感がある。医師とは夜間も必ず連絡が取れ、日頃の入居者の体調も把握できているので何でも相談できる。

住居として使用していた建物を改修しているため不便な箇所もあるが、逆に階段を筋力の低下防止に活用する等の工夫をしており、入居時に比べ下肢がしっかりしてきた方が多い。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

ほぼ毎日、散歩や買い物で外に出掛けているが、地域との交流があまりできていない。今後、ホーム側から働きかけて地域に溶け込めるようにしたいとの考えであるので期待したい。

業務日誌に余白が多く、うまく活用されていないと感じた。個人ファイルの介護記録も、もう少し具体的にその方の様子がよく分かるように会話等も交えた記載ができればもっと良くなると思う。会議の記録も残すなど記録類の見直しをされ、更なる充実を望みたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 今までの経験や出来る事をしてもらって自分の役割ができ、張りのある生活に繋がっている。過去に部下を指導していた方には何かあるとリーダーになってもらい、他の入居者をまとめる役をお願いすることで皆がうまく行くようになった。 職員は入居者一人ひとりのプライドを大切にしたい言葉掛けや接し方をしている。 トイレと洗面所が向かい合い狭くなっているため、入居者の行動を常に注意し、男性と女性がぶつからないように配慮している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 入居者が不便に感じたらできる事は即対応し、できない事は職員で話し合い対応を決めている。今回、トイレの段差を解消し、とても使いやすくなった。2階の玄関脇にウッドデッキを作り、洗濯物干しや園芸が楽しめるスペースも増えた。 職員から、「骨折や緊急時の応急処置等の医療面の勉強をしたい。」という希望があり、勉強会を設けたいと考えている。その他にも「外部の講習会にも積極的に参加したい。」「介護福祉士の資格取得に向けて勉強する。」等、職員に意欲があり、知識・意識の向上に努めている。		